

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：35413

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370684

研究課題名(和文)映画を活用した医療系大学生向け習熟度別英語教材の開発と指導法の研究

研究課題名(英文)Development of WBT Courses Corresponding to Various Proficiency Levels with the Use of Medically Themed Films

研究代表者

角山 照彦(KADUYAMA, Teruhiko)

広島国際大学・看護学部・教授

研究者番号：00300418

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、映画の同一場面を素材としたレベル別WBT型英語学習教材を開発し、多くの大学にて実施されている習熟度別教育の効果を上げることを目的としている。開発教材は、動機付けに効果的な映画のうち、医療系大学での活用を念頭に置いて医療関連素材を厳選し、ESP(特定目的のための英語)アプローチに基づいて制作されている。医療系学部の大学生を対象とした縦断的調査の結果、習熟度、英語学習への関心に関わらず、学習者は同一形式で制作されたEGP(一般目的のための英語)教材よりもESPアプローチで制作された本教材の方を有意な割合で有用だと評価し、英語運用能力についてはESP、EGP教材共に有意な上昇が観測された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop WBT (Web-Based Training) materials with the use of medically themed films and examine their effect on learners. With the ever increasing need for ESP, the use of medically themed films was deemed to have the potential to motivate students in medical-related disciplines further in their studies of both language and their chosen fields. A one-year experiment was conducted in order to examine learners' evaluation and preferences regarding films used in English classes. The results revealed that more than 70% of the participants preferred learning with medically themed films to learning with generally themed ones, regardless of their proficiency and interest in learning English. This suggested that an ESP approach with the use of medically themed films adequately addresses the needs and preferences of learners. It was also found that the film-based ESP material is effective in improving learners' listening abilities.

研究分野：外国語教育

キーワード：映画英語教育 ESPアプローチ 習熟度別教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 急速に多様化が進む大学生の学力に対応するため、現在多くの大学にて習熟度別教育やリメディアル教育が実施されている。習熟度別教育においては、レベルの異なるクラスごとに全く内容の異なる教科書で授業が進められることが多いが、同一科目の場合、少なくとも取り上げる題材やテーマは同一のもので学習し、到達目標とするスキルをクラスのレベルに合わせて指導するのが本来の姿であろう。ただ、そうした同一題材によるレベル別教材が現在不足しているのが現状である。また、リメディアル教材に目を向けた場合、語彙、文法項目等に関しては、入念な検討が加えられているものの、題材や素材自体は従来からの教材と大差ないものが多く、一見中学校の教科書と見間違ふものも存在する。これまでの英語学習で躓いてしまった学習者には、同じ教科書をもう一度やり直させるという従来型のアプローチではなく、これまでと異なるアプローチが不可欠である。つまり、大学生を対象としたリメディアル教材開発においては、成人が高い興味・関心を示す素材の活用が求められている。

(2) 一方、映画は、学習者の習熟レベルに関係なく、学習者が極めて高い関心を示す素材として英語教育においても広く活用されているが、聴解力向上に関する実証研究は限られており、指導法研究や教材開発の点においてはまだまだ十分とは言えない状況にある。また、映画を扱った学習教材も各種出版されているが、レベルは総じて高めで、初級レベルの学生に活用できるものや、リメディアル教育を念頭において制作されたものは非常に限られている。このように、動機付けへの高い効果が実証されている素材が、動機付けに大きな問題を抱える学習者、すなわち、英語を不得意とする学習者にこれまで十分

に活用されてきていないという現実がある。

(3) こうした現状を踏まえ、本研究代表者は、習熟度別教育やリメディアル教育での利用を念頭においたレベル別英語教材の開発を計画し、パブリックドメイン映画 2 作品を活用することで e-learning に対応した映画英語教材を開発し、その効果を実証してきた (角山, 2013a, 2013b; Kadoyama & Ochi, 2012)。上述の研究では EGP (English for General Purposes, 一般目的の英語) の視点から教材を開発したが、近年 ESP (English for Specific Purposes, 専門分野別英語教育) へのニーズが高まってきており、その対応が望まれているところである。ESP における映画の活用という分野においては、工業系の大学生向けの井村・Figoni (2013) による実践報告など、まだその数は限られており、医療関連分野は言うまでもなく、教材化への取り組みはまだ緒に就いたばかりである。

## 2. 研究の目的

本研究は、映画の同一場面を素材とした難易度の異なる 3 レベルの e-learning 対応型英語学習教材を開発し、現在多くの大学にて実施されている習熟度別教育やリメディアル教育の効果を上げることを目的としている。開発教材は、動機付けに効果的とされる映画を活用し、習熟度や動機付けの点で大きな差がある大学生の基本的英語コミュニケーション能力の向上を目指したものであるが、特に、医療系大学での活用を念頭に、医療や福祉など、学習者の専攻分野に関連した内容を扱った素材を題材とすることで ESP にも対応できるものとなっている。

本研究の期間内に明らかにしようとする点は次の 3 点である。

(1) 習熟度別教材、リメディアル教材開発

における映画素材の活用可能性およびその有用性

映画という膨大な作品群の中に、ESP、特に医療系大学生向けの英語教育の視点から、習熟度別教育やリメディアル教育に活用できる場面が実際に存在するのか、また、それらを活用して体系的な学習システムが開発できるのかを実際の教材開発を通じて明らかにする。

(2) 開発教材の学習者への動機付けへの効果

リメディアル教育を必要とする習熟度の低い学習者にとって、映画を活用した英語教材が従来の教材と比較して特に高い興味・関心を引き起こし、自発的な学習へと結びつくものとなりえるのかどうか、学習者への事前・事後調査により、効果を測定する。

(3) 開発教材の英語運用能力向上への効果

本研究における開発教材が学習者の英語コミュニケーション能力向上に及ぼす効果を、適切な方法により測定し、本開発教材の有効性を実証する。

### 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、次のような計画および方法によって研究を遂行した。

(1) コースウェアの大枠決定

まず、研究代表者の勤務校の大学生を対象とした共通英語運用能力テストおよび質問紙法により、学生のニーズおよびレベルの把握を行い、習熟度別教育用教材に必要とされるレベル・到達目標についてまとめた。並行して、すでに開発されている習熟度別大学用英語教材の調査を行い、シラバス・デザインや必須項目、演習方法等について評価を加え

ると共に、前述の検討結果と比較しながら、必須項目となる指導項目やレベルを選定し、コースウェアの大枠を決定した。

(2) ESP の視点による映画の素材研究および教材開発

次に、コースウェアの素材となる映画の収集および内容の調査を実施した。大学生の専攻および関心等を考慮しながら、医療分野に関連性の深い映画の収集を行うと同時に、収集した映画の実際の発話データを作成した。調査においては、パブリックドメイン映画を含めて 20 作品を候補として検討した。先に選定した指導項目と発話データとを検索するプログラムを活用しながら、映画の場面選定を行うと共に、設問・演習等の教材開発に着手した。教材は習熟度別教育(A~C レベル)に対応するよう 3 種類開発する予定であったが、習熟度別教育の運用実態に合わせて修正を加えた。候補として選定した場面については、実際に大学生に視聴させて、興味・関心についてフィードバックを受けながら最終的な選定作業を進め、開発教材についても実際に大学生に試用しながら、難易度等に必要の修正を加えた。また、場面選定の結果、パブリックドメイン映画が活用できる場合は、選定場面ごとにチャプターを区切るなどした学習用映画 DVD を制作することとした。

(3) e-learning 用プログラムへのコンテンツ移植

開発教材について、e-learning に対応できるようコンテンツの移植および必要な修正を行ったが、映画の著作権に配慮し、著作権法上問題のない部分についてのみ e-learning 化した。使用するプログラムとしては、各種コース管理システム(CMS)を念頭に置いて、機能、操作性等、様々な観点から検討を加え

た結果 Moodle を選定し、新規に専用サーバを構築した。また、開発教材については、ブレンディット・ラーニングを実践できるように、テキスト版も製作し、e-learning 独自のコンテンツも必要に応じて製作した。

#### (4) 開発教材の試行および評価

開発教材を試行しながら、学習者への動機付けおよび英語運用能力向上への効果について、質問紙法および共通テストにより測定すると共に、その結果を踏まえながらプログラムに必要な修正を行った。

### 4. 研究成果

(1) 医療系学部の大学生が医療に関わる様々な問題について考えることができるテーマを含んでいるか否か、および、言語機能別シラバス・デザインによるコミュニケーション指導用の英語教材化が可能か否かという2つの視点から20作品を検討した結果、『レナードの朝』(Awakenings)、『パッチ・アダムス』(Patch Adams)、『私の中のあなた』(My Sister's Keeper)の3作品を選定し、レベル別 WBT (Web-Based Training) 教材および学習用テキストをそれぞれ開発した。教材の習熟度は当初3レベルを想定していたが、勤務校の学生を対象とした共通英語能力テストの結果およびクラスサイズ等、実際の習熟度別教育運営上の問題を勘案の上、上級・初級の2レベルに変更した。また、選定映画にパブリックドメイン映画は含まれなかったため教材用 DVD の作成は実施しなかった。

(2) まず、先行して開発した『レナードの朝』(上級版)に基づく WBT 教材を活用しながら、専攻分野と関連のない一般的な映画を扱った EGP アプローチと比較する形で、ESP アプローチの効果を横断的調査により検証

した。その結果、一般の映画を活用した WBT 教材と有意差のない高い動機付けおよびリスニング能力向上への効果が確認され、ESP アプローチの有効性が実証された。

(3) 次に、リメディアル教材開発の視点から習熟度の低い学習者への学習効果を確認するため、『レナードの朝』(初級ベータ版)の効果を検証した。その結果、動機付けに関しては上級版同様高い効果が確認されたものの、リスニング能力向上については有意な上昇は観察されなかった。実験結果を受け、初級版については、演習の難易度、分量に調整を加えた修正版を作成した。また、授業外での自主学習用コンテンツを追加し、授業内・外ブレンド型授業により WBT 教材を活用させる形式とした。その結果、復習用ツールとしての活用と比べ、学習者の授業外学習時間の増加に貢献し、リスニング力向上にも効果的であることがわかった。

(4) 続いて作成した『パッチ・アダムス』(上級版・初級版)に基づく WBT 教材を活用しながら、ESP アプローチと EGP アプローチに関する学習者のニーズや好みを縦断的調査により明らかにした。その結果、学習者の習熟度および英語学習への興味・関心の度合いに関係なく、医療系学部の大学生は EGP アプローチと比較した場合 ESP アプローチにより制作された学習教材の方を好む傾向があることが確認された。このことから、ESP アプローチは教員の視点だけでなく学習者の視点からも効果的な教授法であることが実証された。

(5) リスニング演習と並んで医療テーマに関するディスカッションを学習コンテンツの中心として位置付けたが、ICT の活用およ

びアクティブラーニングの手法を活用することにより、効果的な運用が可能であることがわかった。

(6) 本研究では習熟度別授業における運用における効果を主に検証したが、本 WBT 教材はその運用の仕方によっては単一クラス内における学力差にも対応することが可能である。例えば、上級、初級の両方のレベルの問題を WBT の学習者メニューに提示しておき、クラス内で上位の学習者には授業外でレベルの高い問題にチャレンジさせ、下位の学習者には易しい問題から始めさせるなど、学習者の多様化に対応したきめ細かな指導を行うことができる。

(7) 今後の方向性だが、今回有効性が実証された ESP アプローチによる WBT 教材の数を増やしていくことが肝要だと考える。今回 WBT 教材を作成した上述の 3 作品に加え、選定作業において上位に残った『ドクター』(The Doctor)、『小さな命が呼ぶとき』(Extraordinary Measures)、『ロレンツォのオイル/命の詩』(Lorenzo's Oil) についても教材開発の準備は整っており、順次開発を進めていく予定である。これにより、ESP アプローチによる教材不足という現状の改善が期待される。

#### <引用文献>

Kadoyama, T. & Ochi, T., Developing e-learning course utilizing public domain movies, JACET Journal, No. 55, 2012, 111-120

井村誠、William Figoni、映画とグレイディッド・リーダーを組み合わせた ESP 授業 『アポロ 13』を中心に、映画英語教育学会西日本支部 10 周年記念論集、2013、

161-174

角山照彦、パブリックドメイン映画を活用した e ラーニング教材の開発 - e ラーニングによる支援は「単位の実質化」につながるのか -、映画英語教育研究、第 18 号、2013a、27-39

角山照彦、語学教材として見たパブリックドメイン映画の可能性 『シャレード』を活用した WBT 教材、映画英語教育学会西日本支部 10 周年記念論集、2013b、139-152

#### 5. 主な発表論文等 〔雑誌論文〕(計 6 件)

Kadoyama, T., Exploring active learning strategies in film-based English classes, STEM Journal、査読有、第 18 巻第 2 号、2017、in print

Kadoyama, T., A longitudinal study on the use of films with medical themes in the classroom - Do students in medical-related disciplines prefer medically themed films? -、映画英語教育研究、査読有、第 22 号、2017、3-16

Kadoyama, T., Developing film-based course materials for low-proficiency learners—A pilot study based on the film Patch Adams—, 映画英語教育研究、査読有、第 21 号、2016、3-16

Kadoyama, T., The use and effects of a medical-themed film in English classes for nursing majors - Focusing on low proficiency learners -、リメディアル教育研究、査読有、第 10 巻第 2 号、2015、65-75  
角山照彦、医療系クラスに使える映画の教材化に関する実例研究 - 『レナードの朝』を活用した ESP アプローチ -、映画英語教育研究、査読有、第 20 号、2015、3-17  
角山照彦、映画『レナードの朝』で学ぶ英

語と医療、日本難病看護学会誌、査読有、  
第 19 巻第 2 号、2014、123-124

[学会発表](計 8 件)

Kadoyama, T., Materials development with the use of medically themed films, 第 6 回映画英語教育学会北海道支部大会、2017 年 3 月 11 日、小樽商科大学札幌サテライト

Kadoyama, T., Using Moodle in film-based English classes, SAI 2016 STEM-ATEM-ICEM Joint International Conference, September 24, 2016, Kookmin University, Seoul (KOREA)

Kadoyama, T., A longitudinal study on the use of films with medical themes in the classroom, 第 22 回映画英語教育学会全国大会、2016 年 7 月 9 日、早稲田大学

Kadoyama, T., The use and effects of a medical-themed film in English classes - Focusing on low proficiency learners - , The Applied Linguistics Association of Korea (ALAK) 2015 International Conference, September 19, 2015, Chung-Ang University, Seoul (KOREA)

角山照彦、多様な習熟度に対応した映画教材の開発 - 『パッチ・アダムス』を活用した実例研究 - 、第 21 回映画英語教育学会全国大会、2015 年 8 月 7 日、京都女子大学

角山照彦、医療系クラスにおける映画の教材化に関する実例研究 - 『レナードの朝』、『パッチ・アダムス』を活用してみた、第 4 回映画英語教育学会北海道支部大会、2015 年 3 月 21 日、小樽商科大学札幌サテライト

角山照彦、映画「レナードの朝」で学ぶ英語と医療、日本難病看護学会第 19 回学術集会、2014 年 8 月 30 日、広島国際大学

角山照彦、医療系クラスに使える映画の教材化に関する実例研究 - 『レナードの朝』を活用した EGSP アプローチ - 、映画英語教育学会第 20 回全国大会、2014 年 8 月 20 日、福岡女学院大学

[その他]

ホームページ等

<http://tkadoyama.sakura.ne.jp/moodle/>

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

角山 照彦 (KADUYAMA, Teruhiko)

広島国際大学・看護学部・教授

研究者番号：00300418

(2) 研究分担者

なし